

子育ては楽しいもの？

(地域の集会の後で夏子、秋子話している所へ
春子登場)

ひさしぶりじゃなあ。

春子 「みんな、久しぶりだね。」

ほんのこて ひさしぶりじゃなあ

夏子 「ほんとに久しぶりだね。」

ひさしぶりじゃなあ。元氣じゃったひか？

秋子 「久しぶりだね。元氣だった？」

(それぞれ口々にあいさつ)

痩せたんじゃんか？

春子 「それはそうと、夏子、少し痩せたんじゃないの？」

そりや久々に子育てしとつでなあ。

夏子 「ほんとう？それは、久々に子育てしているからね。」

あんたそんなこまか子がおったあ？

秋子 「子育て？あなたそんなに小さい子供がいたの？」

しとらんとじゃって、たのんで

きつとよ

夏子 「孫、孫！娘の子よ』お母さんは仕事してないから、子育て頼むよ』って言うて、産休明けから連れてきているのよ。」

そや大変じゃなあ。

大騒ぎになつて、

「それは大変だね。うちは、たまに置いていかれるだけでも大騒ぎになるんだから、毎日だったら大変だね。」

毎日だったらいへんじゃなあ

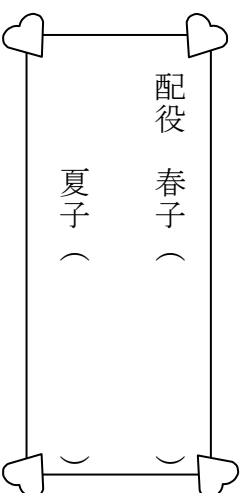
じゃつど。どひこ娘の子ちゆうてもあずかりもんじゃつで、気をつかうで

「そうなのよ。いくら娘の子だからっていつでも預かりものだからね。気を遣なあ。

うわ。」

じゃつどじゃつど。孫は気をつかうでなあ。

秋子 「そうだそうだ。孫は気をつかうよね。」



あんたげは、孫さんはおっとけ？

春子 「秋子あなたのところは、孫はいた？」

おらんと。おらんどん気をつかうじやろうと思うもんで。

秋子 「いないよ。いないけど気をつかうだろうなあと思っで。」

(顔を見合わせて笑う)

言うて

春子 「もう、適当な事を言っで！」

(みんな笑う)

よかなあ

あたいは

夏子 「それにしれも、娘はいいなあと思うよ。私は3人の子育てをしたけど、誰に

もらえんかったもんなあ

しよった

も手助けしてもらえなかったもんなあ。一人で髪ふり乱して子育てしたよう

気がすっで。

な気がするわ。」

そげんじやったなあ。化粧もせんじん、よう

秋子 「そうだったね。化粧もしないでね。一人でよく頑張ったわあ。」

じやっでなあ。

なかつたでな。

春子 「そうだよ。今みたいに、子育て支援だ、託児所だなんてなかつたよね。」

そいは困いなあ

春子 「それは困るなあ。」

しとつところがあつとよ。

夏子 「児童館や大学でも、子育て広場をしているところがあるのよ。昔に比べて、
広がるとるとじやんな。

子育て支援の輪が広がっているのよ。」

じやんな。そいにしても、

多かどな。

秋子 「そうなんだ。それにしても、最近子供をあやめたとか、虐待の話が多いよね。」

春子 「そうだよ。若い兄弟を部屋に何日もほったらかしにして餓死させたとか、

小さなゴミ箱に閉じ込めて、窒息死させたとか新聞読みながら、胸がしめつ

思いがすっで。

けられる思いがするわ。」

夏子 「そげんじゃつどな。ないこてじゃろ。」

夏子 「そうだよね。なんでなんだろう？子育ては確かに大変だったけど、私は子育てを楽しんだよ。」

秋子 「そげんよ。しんどかどん、
楽しかよな。」

秋子 「そうよ。しんどいけど、子供の成長を身近で見られるのは、楽しいよね。
こげん面白かもんはなかと思うし、幸せじゃつたどな。」

秋子 「こんなに面白い物はないと思うし、幸せだったよね。」

春子 「そいでも、
少なかつちゆうことを

春子 「それでも、最近育児が楽しいと思う母親は、少ないということを聞いたこと
あつど。」

春子 「とがあるわ。」

夏子 「そげん？そいで虐待はおこると？」

夏子 「そうなの？それで虐待がおこるの？」

秋子 「そいだけじゃなかと思うどんな。」

秋子 「それだけじゃないと思うけどね。最近新聞で見た子育て中の千七百人のアン

ケート結果（平成22年朝日新聞より）なんだけど、虐待について『虐待

する人の気持ち理解できる』と答えた人、何%だったと思う？」

春子 「ぐらいじゃるか。」

春子 「15〜25%ぐらいかなあ。」

夏子 「そげんおらんじゃろう。」

夏子 「そんなにいないでしょう。」

秋子 「そうじゃなかよ。
おつとよ。」

秋子 「そうじゃないのよ。44%もいるんだよ。ちなみに『理解できない』と答え

た人は27%だったのよ。」

夏子 「そげんじゃつど。
無理なことやっ

夏子 「そうなんだ。だから娘が『虐待してる』と間違われたのも無理なことだつ
たわけやんな。」

秋子 「たわけだね。」

秋子 「間違われたと？」

秋子 「何？虐待に間違われたの？」

夏子 「そげんよ。」 夜泣きしてなあ。

あやしよったら、

夏子 「そうなのよ。孫が夜泣きしてね。娘が玄関前であやしてたら、民生委員さんがとんできて『虐待じゃないの?』『御主人はいないの?』と大騒動になったよ。」

じゃなか?

おいやらんと?

なっ

たよ。結局、私が呼ばれて、説明するはめになったのよ。」

はめになったとよ。

えらい目におうたなあ。そいでも、

見とつてくれる

春子 「大変な目にあつたね。それでも、娘さんの近所には、ちゃんと見てくれる

いるうちいうことやっどな。ありがたかことじゃ。

人がいるっていうことだね。ありがたいことだよ。」

そげんじゃんなあ。

夏子 「そうだね。」

いこううちゅうことかなあ

秋子 「子供は、地域の宝として、みんなで見守っていこうっていうことかな。」

じゃんな。

わたしらは、

春子 「そうだね。それに、子育ての先輩として、私達は、お母さんも支えていかな
いといけないのかなあ。」

そういやあ、

春子 「そういえば、今日〇〇公民館で『楽しい子育て』の話があるって回覧板が

きとつたなあ。行くが。

きてたよね。一緒に行こうか。」

そげんじゃな。行たてみるかい。そいで、

秋子 「そうだね。行つてみようかな。それで、私達にできることは何か、考えてみ
ようか。」

